



9. 「信徒奉仕職」って、どんなものがあるの？

- (2. 3) 信徒奉仕職の種類  
4) 存在としての奉仕)

～「ステップ1」「ステップ2」は、それぞれがひとつのセッションとなる～

[項目のねらい]

「奉仕職」といえるかどうかにはこだわらず、身の回りで行われている奉仕をできる限りいろいろとあげてみる(司祭固有のものは除く)。信者であるかどうかにかかわらず、多くの善意の人たちのさまざまな働きによって人々の生活が成り立っていることに気づく。

◇分かち合いのポイント ステップ1◇

- ・まず各自で「奉仕」として思いつくものを考えながら3種類に分類し(表参照)、そのあとそれを小グループで出し合う。出たものを模造紙に記入してもよいし、各自で短冊に記入し、それをあとでKJ法のように模造紙に貼り付けていってもよい。出された項目を分類して記入(貼り付け)していくと分かち合いがやりやすい。
- ・「何が奉仕といえるのか」あるいは「どこに分類すればよいのか」について、判断の難しい場合も考えられるが、あまりこだわらず、まず自分なりに判断して出してみる。小グループで分かち合いながら、共通理解を深められるとよい。

◇分かち合いのポイント ステップ2◇

- ・第一の質問は、まず全体で、ステップ1で出された内容を確認し、そのあと各自で「協力参加できればよい」「取り組んだほうがよい」「あったほうがよい」と思う奉仕について振り返る。
- ・振り返りは、個人として、というよりも、「教会として」考えてみる。
- ・各自が思いついたものを出し合って分かち合い、できるだけ幅広い奉仕のイメージを持てるようにする。出されたものは、ステップ1の表に追加して記入するとよい。
- ・上記分かち合いは、「信仰からの奉仕」「信仰への奉仕」を中心にし、「存在としての奉仕」については特別に取り扱わなくてもよい。(出されたときはリストに入れておけばよい。次の第二・第三の質問で取り上げるとよい)
- ・「自分自身が周りの人々からどのように受け止められているか」の扱い方については、個人の振り返りと、できればそれについての祈りの時間をとるような形とし、よほど信頼関係の強いグループの場合を除き、分かち合いはしない。  
分かち合いをする場合は、それぞれの人の持っているよいところで気付いたことを、互いに出し合うような形にする。